

2025年度活動報告書

2025年04月01日～2026年3月31日

【当会活動地の状況】

紛争、災害、経済危機の三重苦が当会活動地を襲う支援の「空白」エリア。

1. 当会活動地（カーボデルガド州ペンバ市）の状況

- 紛争の再燃と避難民の増加: 2024年末に始まったコンゴ民主共和国東部での紛争激化と、それに伴うEUのルワンダ軍への資金支援の不透明化が影響し、モザンビーク北部の治安は急速に悪化。
- カーボデルガド州北部ではイスラム過激派の攻撃が再燃し、新たに約3万人以上の子どもを含む住民がペンバ市周辺へ避難してきた（2025年7月時点）。
- サイクロン被害の慢性化: 2024年12月に直撃したサイクロン「Chido」により、当会の事務所兼住居および「寺子屋キッズ」の家の約90軒が破壊。国際的な大規模支援は主要な再定住キャンプに集中しており、当会が活動するスラム地区への復旧支援は依然として届いていない。
- 貧困度と失業率の急上昇: 紛争とサイクロンによる物流停滞と農地破壊により、食料価格が高騰。住民の8割以上が一日2ドル未満で生活する極度の貧困状態にあり、天然ガスプロジェクト再開の延期（2029年予定）も相まって、地元での雇用機会はほぼ喪失。

2. モザンビークのいのちをつなぐ会の活動状況と財務状況

厳しい環境下において、「教育」「配食」「公衆衛生」の継続に全力を注ぎ、支援と経済の循環を創造するための「小さな商いプロジェクト」への資金調達にも挑戦したが、非常に厳しい局面。

- 活動の遅延: イニシャルコストの大きい「小さな商いプロジェクト」の資金調達ができず。また、当初の計画では3年かけて被災家屋（90軒）の修理を進める予定であったが、資金不足と緊急的な人道支援へのリソース転換により、修理完了は全体の5%未満にとどまっている。
- 資金調達の難航: 世界的な景気停滞の影響、民間助成金においては国内向けに資金が集中し、主要な助成金獲得には至らず、個人寄付の増加も困難。突破口となる新たな施策を模索中。

当会活動地を含む東アフリカ、中東地域で先の読めない紛争の勃発。紛争・サイクロン・貧困と食糧難のさらなる深刻化と、届かない人道支援の中、「平和の家」管理者を含む当会関係者青年が10名病死するという厳しい年となった。

★2025年に重視する行動・3つの柱★

- 1：食べられる：子どもたちもコミュニティの人もスタッフも皆が食べていける支援。
- 2：知られる：認知度の低い地から、現状と声を届けていく広報。
- 3：思いやる：困っている人を見逃さない、見捨てないコミュニティ文化の強化。

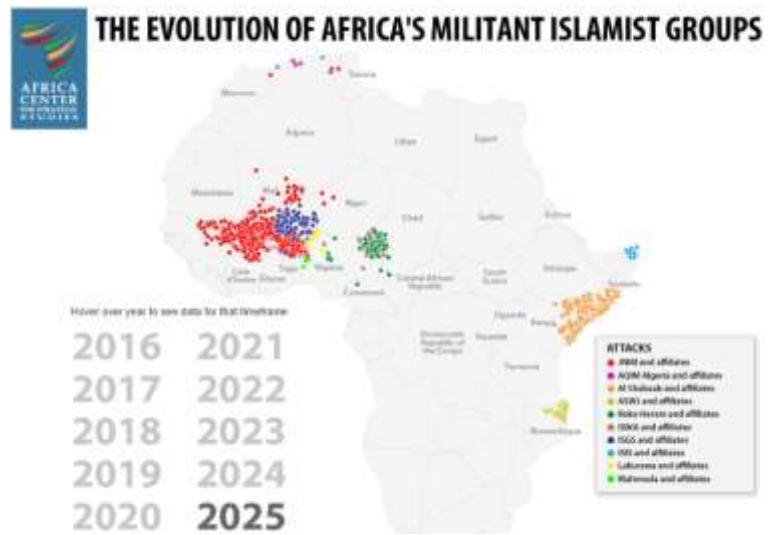
【2025 年度の活動方針】

食糧難・衛生・サイクロン・紛争の4点から命を確実に守る人道支援に注力。

スラムの経済と支援の循環を創造する10年計画「小さな商いプロジェクト」の仕込みも“諦めず”行った。

2025 年度の収入は、2024 年度比4割減、2024 年度は2023 年度比5割減しており、活動内容が広く深くなっているにも関わらず、獲得できる資金が減少の一途。助成金の縮小や経済低迷により、資金確保が非常に厳しくなっているが、資金源の多様化にも今後力を入れていく。

※2025 年度の活動に関して、毎月日本・モザンビーク事務局にてオンライン会議及び役員会を実施した。



イスラム過激派のアフリカでの動き

【表彰】

- 社会ボランティア賞 (2025 年 9 月) : ソロプチミスト日本財団
- 第7回 SDGs ジャパンスカラシップ岩佐賞・教育の部 (2026 年 3 月) : 岩佐教育文化財団



社会ボランティア賞

教育の部

**モザンビークの寺子屋で
スラムと紛争避難民の子どもの命と夢を育む**

一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会
(代表者 榎本恵)
賞金: 300万円

SDGs 岩佐賞・教育の部

【メディア掲載】

毎日新聞2025年5月4日(日)朝刊・北九州版

モザンビークで貧困に苦しむ子どもたち 10年以上さまさまな支援

「病気や飢えに苦しまぬよう」
「いのちをつなぐ会」設立 榎本恵さん

故郷・小倉南区の日本事務所から活動継続
紛争激化で帰国「今も心は現地に」

企業や個人 民間の寄付に支えられ




モザンビークのいのちをつなぐ会は政府の援助は受けておらず、企業や個人など民間からの寄付に支えられている。これまで文部科学大臣賞や加味輪理賞を受賞。さだまさしさんが設立した財団による「胸に立つライオン オブ・ザ・イヤー」など数々の賞に選ばれてきた。支援はホームページ www.isurugakukai.com、QRコードのほか、銀行「三井住友銀行天神町支店(課) 1920099 一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会」で受け付けている。問い合わせは、つなぐ会日本事務局 033-473-1444。(坂田雄平)

2025年5月4日(日)
毎日新聞

2025年12月5日毎日新聞

2025年(令和7年)12月5日(金) 毎日新聞

モザンビークのお友達 元気になってね

園児らお駄賃ため募金活動

小倉南 徳力園幼稚園

「いのちをつなぐ会」に義援金21万8808円

現地「寺子屋」の人配食などに活用

9月には児童デザインコンクールでシンガー・ソングライターのははは(ハナバ)さんに出会って歌と踊りを楽しんだ。榎本さんが「こどもが食べられない日もあります」などとモザンビークの子どものために義援金を贈ることになった。年少から年長児約15人は、おやつのお楽しみパックで野菜粉を作り、前「九月、家の平屋いせいで作る方法(07)後集めた。また、前月11月13日までは現金への協力を受け付け、アザやカレラ等の収容なども集めた。

榎本さんは前年募集であり、0歳児などを含めた園児24人が参加。お駄賃が元気に元気に「ははは(ハナバ)さん」といって「代々の分が榎本さんとナツキさんと榎本さんでした。その後、ナツキさんの娘と知り合い一緒に楽しんだ。

榎本の「寺子屋」で学ぶ約20人のパンやビスケットの焼成。サンダールなどに活用する。榎本さんは「日本の子どもたちの力貸さしてもらい、モザンビークの子どもたちも頑張ろうという気持ちになりました」と喜んでた。

【2025年度の活動計画骨子】

＜組織基盤整備＞ 長期的な活動の持続可能な体制づくり。

- ・ 資金調達の多様化
- ・ ウェビナーの実施（4回）

＜教育活動＞ 350名のスラムとテロ紛争避難民の子どもが通う寺子屋の運営（2箇所）。

- ・ **【重要】** 朝と晩の配食活動
- ・ 寺子屋での子ども教育の継続
- ・ 寺子屋ガールズ巾着プロジェクト（4年目）

＜公衆衛生活動＞ 基本的な公衆衛生知識の供与と疾病死亡率の低減。

- ・ **【重要】** ペンバ寺子屋こども公衆衛生・感染症対策教育
- ・ **【NEW】** 水系感染症予防のための排水設備整備

＜環境保全活動＞ コミュニティで取り組む環境美化と貧困と環境保全問題の両立。

- ・ 廃プラ削減・環境保全ワークショップ

＜テロ紛争・サイクロン被災者支援活動＞ 被災者の命と暮らしを守る活動。

- ・ **【NEW】** サイクロンで破壊した家屋の修理
- ・ エспанサオン共同水場の深井戸設置

＜国際相互理解推進活動＞ 平和・相互扶助・国際交流をテーマとした講義公演活動。

- ・ 日本国内での講義公演活動

【重要】 ＜小さな商いプロジェクト＞ コミュニティの経済と社会支援が回る事業の創出。

- ・ ミニバスの運行



A Melodic Wish for Peace
平和を願う歌 / ナジャ
Where We Call Home

We meet a foreigner who live in Fukuoka Prefecture,
starting with Mozambican singer-songwriter
Nediaminda in Kitakyushu.

Broadcast on February 17, 2025 /
Available until February 17, 2026



日本語動画



Breaking the Poverty Cycle Through Education:
Enomoto Megumi / CEO, Bridge for Lives in Mozambique
教育を通じて貧困の連鎖を断ち切る
モザンビークのいのちをつなぐ会 榎本恵
Direct Talk

Enomoto Megumi opened free learning centers modeled on traditional
Japanese temple schools to provide education for disadvantaged children
in Mozambique. She talks about breaking the poverty cycle.
Broadcast on November 12, 2024 / Available until November 12, 2027



英語動画

NHK WORLD での番組化

【2025 年度の主な活動内容】

【 **組織基盤整備** 】 長期的な活動の持続可能な体制づくり。

《資金調達の多様化》

当会の資金の8, 9割を占める民間助成金の縮小により、活動資金が年々大幅減少している。一方、サイクロンや紛争、食糧難により必要資金は増加。最低限、子どもたちの命を守る「食」の資金を確保するためにも、人脈づくりを行うことで若干であるが寄付金が増加。一方でマンスリーメンバー登録人数が25人から22人に、家庭の経済的理由から、減少した。

《ウェビナーの実施（4回）》

アフリカXアート対話を7月から10月まで合計4回実施。各回20名ほどのオンライン来場があった。11月に「ナティティ平和の家」の管理者が病死し、喪に服するため一旦中止しているが、2026年度は形を変えて再開する予定。

【 **教育活動** 】 350名のスラムとテロ紛争避難民の子どもが通う寺子屋の運営（2箇所）。

5年連続子どもたちの死亡率ゼロを達成中！

【重要】《朝と晩の配食活動》

ペンバ寺子屋の子どもたちの15%が1日1食以下であり（2021年4月調査）、寺子屋での配食活動が無いと1日何も食べれないという子どもが10%以上いるため、引き続き、朝と晩の食料配布を継続。

《寺子屋での子ども教育の継続》

避難民の子どもも増加し、すでに寺子屋に通所する子どもが350名を超えている。加えて、幼児組の通所が増加しているため、乳幼児死亡率が高い環境にある幼児の健康管理を実施しながら、教育活動を継続。寺子屋OGOBを教師に起用する「学びの環」も強化。初めてのペンキ画教室も実施した。



《寺子屋ガールズ巾着プロジェクト（4年目）》

寺子屋の女子及びOGによる巾着づくりアルバイトを去年に引き続き実施。200枚制作し、コーヒーの販売に関しては、理事の高井が担当した。コーヒー豆はウガンダ産を利用。



【 公衆衛生活動 】 基本的な公衆衛生知識の供与と疾病死亡率の低減。

《ペンバ寺子屋こども公衆衛生・感染症対策教育》

9年目となる公衆衛生活動。寺子屋の子どもの死亡率5年連続ゼロを目指し達成した公衆衛生活動。

コレラ、出血性結膜炎、麻疹（はしか）も流行しており、サイクロンで家を無くした子も多い。気候変動の影響で雨季が長引く傾向にあるため、劣悪な環境で衛生的に生きるための基本である、石鹸での手洗いや爪切り、歯磨き、洗剤の使用方法、正しい感染予防の知識を供与し、確実に命を守った。



★上級救命講習受講 in 北九州

また北九州市消防局の「上級救命講習」を榎本、ナジャで受講。成人・乳幼児に対する心肺蘇生法（胸骨圧迫・人工呼吸）やAEDの取扱い、異物除去法、止血法、傷病者管理法、副子固定法、搬送法などを学んだ。

NEW 《水系感染症予防のための排水設備整備》

ペンバ寺子屋とナティティ平和の家が、洪水時に浸水し、汚物槽の水と混じって、汚水の水たまり状態が続き、感染症の巣になるため、敷地内に水が貯まらないように、排水槽と路地（溝）への排水管を整備し、豪雨時でも衛生的に施設を利用できるようにした。



目的 水系感染症等に罹患しにくい環境を整備し、子どもたち、紛争避難民、地域住民の生命を確実に守る。

排水設備で防ぐ疾病
水系感染症等とは

- 水系感染症：コレラ、腸子フス、A型肝炎など
- ベクター媒介感染症：マラリア、デング熱やデング出血熱、黄熱、ウエストナイル熱など
- 破傷風・ガス壊疽菌、レジオネラ症

実施内容

ベンバ寺子屋・ナティティ平和の家の排水設備整備
内容：降雨時に敷地内に水が溜まることで、疾病発生源にならないように、排水設備を整備する。

補足活動2) ベンバ寺子屋公衆衛生活動 内容：毎日の手洗い習慣の実践

補足活動3) ナティティ平和の家の防犯強化 内容：泥棒が入ってこれないように一部の壁の拡張及び有利鉄線を整備する

補足活動4) 井戸の給水円滑化 内容：寺子屋の井戸給水の外壁側と屋内トイレ側にポンプ設置、平和の家の外壁側にポンプ設置。

裨益者 ベンバ寺子屋を利用する子どもたち350名＋ナティティ平和の家の住人年間140名 合計：490名
(間接) ベンバ寺子屋と平和の家の深井戸利用者 400世帯 (8000名)

【 **環境保全活動** 】 コミュニティで取り組む環境美化と貧困と環境保全問題の両立。

《**廃プラ削減・環境保全ワークショップ**》

子どもたちが年で一番楽しみにしている 6 月 1 日の国際子どもの日に合わせてペンバビーチに寺子屋キッズ 200 名を連れていき、海洋環境教育とビーチ美化を実施。年長組による廃プラ回収も行った。



【 **テロ紛争・サイクロン被災者支援活動** 】 被災者の命と暮らしを守る活動。

NEW 《**サイクロンで破壊した家屋の修理**》

2024 年 12 月 15 日にペンバを直撃したサイクロン Chido により当会事務所兼住居（現在はテロ紛争避難民に貸している部屋もある）の屋根も吹き飛び、寺子屋キッズの家も約 90 軒が破壊され、遠い親類の家に疎開している子どもたちも多い。スラム地区は支援が一切入っておらず、しかも雨季。住民はなすすべなく途方に暮れているため、当会で地道にスラムの壊れた家（特に屋根）の修理を行い 5 軒の修繕を行った。





《エスパンサオン共同水場の深井戸設置》

「エスパンサオン共同水場」の深井戸の設置をようやく実施することができた！！

また「ナティティ平和の家」の管理者が11月に病死。体調が悪くなってから継続的にサポートを行ってきたにも関わらず、悲しみに覆われる年末年始となった。モザンビークの医療の質の低さを改めて実感。

「ナティティ平和の家」はサイクロン被災者も居住しているため、メンテ&管理業務を継続した。

「エスパンサオン平和の家」は、資金不足のため建築ができない状態が続いているが、敷地内の整頓を実施。



【 国際相互理解推進活動 】 平和・相互扶助・国際交流をテーマとした講義公演活動。

《日本国内での講義公演活動》

東京(2)、神奈川(1)、山梨(2)、大阪(9)、福岡(7)、オンライン(6)で、27 箇所、来場者数 3,323 名の講義公演活動を実施。特に、学校での公演をメインにして、子どもたちに相互扶助・多様な文化の許容・人間力の向上を目的とした講義公演活動を行うことが出来、次年度はインクルーシブ分野でも活動を行う。



【 小さな商いプロジェクト 】 コミュニティの経済と社会支援が回る事業の創出。

運送、加工業、パン屋、自動車整備等。スラムの人たちが日常的に利用できるサービスやモノを提供する小さな事業を創出していくための基盤づくり。2025 年度にはレンタカー事業を開始する計画で進めていたが、資金調達が保留になり断念。



新たな挑戦：コミュニティ・ビジネス支援活動

- 【失業率7割超え】**
 - ※ 高失業率がもたらす不安、犯罪率の増加
 - ※ 日雇いや時給で生活する層が増える
 - ※ 電気、ガスなどの生活必需品の費用が高い
 - ※ 進学を断念する若者が続々と
- 【資金調達が困難】**
 - ※ 知名度が低い
 - ※ 信用状が提供されない
 - ※ 借金・融資の審査が厳格
 - ※ 「金」を借りる・貸すに慎重

自立創造的に、支援を継続する覚悟が必至！

住居との近い情報とネットワーク、相互扶助力を高めながらこそ実現できるコミュニティ・ビジネス

新・最大の挑戦！ 小さな商いプロジェクト 2020年までに実施

スラムの住民が自立創造的に支援と経済の循環を作る、住民主導の理想的なコミュニティ開発を実現。

- コミュニティの相互扶助力を強化する
- 就業機会の創出、社会支援の資金と機会の増大
- 就業場所の創出、トレーニングの場の創出
- 自立創造型コミュニティのモデルケースづくり

社会的ジレンマを脱するには思い → 運送業、パン屋、薬局、食堂等の立ち上げ

住民が必要とする事業を創し、スラムの経済を回し、みんなで創った収益を子ども、被災者・貧乏、能力開発などの支援に活かす。

《ミニバスの運行》

ミニバスの運行。2023 年に運行するも 1 週間で中国企業のミキサー車のブレーキ故障による大事故に巻き込まれ当会バスが廃車。裁判を経て、2025 年 3 月に中古ミニバスを購入。2025 年 4 月より運行開始し、利益を子どものパン代金に充てる計画を立てていたが、PJ 関係者の病死により運行一時停止。利益を出せず。



最優先課題 子どもの命を守る配食費確保

2025年度 実施中

状況：配食費大幅不足、何がなんでも配食費を作らないと！

配食費 年間380万円 → **運送業**

【運送業】始動・実験段階

1：ミニバス（運行中）

- ⇒ 2台運行 ⇒ 1台は所有していたが2年前に中国のミキサー車事故に巻き込まれ裁判。今年200万円支払いがあったため中古ミニバス1台購入。もう一台のミニバス費用は複数スタッフの貯金から捻出。

2：トラック運送業（試行中）

- ⇒ 1台運行、資機材運搬用に購入トラックを物流に転用。紛争のため郊外運行禁止中。

3：レンタカー業（未導入）

- ⇒ 利益率が高いので資金調達が次第、SUV車を購入し、始動する。（イニシャルコスト高い）

（想定）ミニバス+トラック 純利益Min年間130万円 うち年間80万円配食活動 緊急経費30万円、投資20万円（小さな商いへの投資）

（補足）当会活動地・ペンバ市の施設所在地（南へ車で5時間のナンプラ州にナンプラ寺子屋も有り）



以上